

ごあいさつ

昭和館は、戦没者遺族の援護施策の一環として、戦没者遺族をはじめとする国民が体験した、戦中・戦後の国民生活上の労苦を、後世代の人々に伝えてゆくために、厚生省（現・厚生労働省）が設置した国立の施設です。

平成十一年三月に開館して以来、のべ二四〇万人を超える方々に来館していただき、常設展示室や特別企画展の見学、図書室や映像・音響室の利用、ニュースシアターでの視聴など広く活用していただきました。このように多くの方々に来館していただきましたことは、当館の運営にあたりまして、日頃からご協力いただいております関係機関、関係者各位のお陰と、心からお礼を申し上げます。

さて、昭和館は本年三月に開館十周年をむかえることになりました。『昭和のくらし研究』第7号を刊行するにあたり、「開館十周年記念特集」として、昭和館にご尽力いただいている古橋源六郎氏（昭和館運営有識者会議座長）と宮脇岑生氏（昭和館運営専門委員会委員長）にインタビューさせていただき、開館から今日までの昭和館十年の歩みを中心に今後の事業の展望とあわせて、ご意見ご感想を寄せていただくことができました。

また、論文としては、公衆衛生の専門家である北川定謙氏（財団法人日本公衆衛生協会理事長）に執筆を依頼し、短い期間ながらも玉稿をいただくことができました。ご多忙の中、ご執筆ご協力いただいた先生方には心より感謝申し上げます。これに加えて、館職員による調査研究の成果や収蔵資料の紹介を掲載することができました。昭和館ならではの調査・研究を進め、これらの研究の成果を昭和館の事業に反映させていきたいと考えております。

今後も、多くの資料を収集保存し、それらを幅広く公開し、忘れてはならない時代の姿を、後世に伝えるために努力していく所存でありますので、一層のご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成二十一年三月

昭和館 館長 花輪隆昭